

世界のソーシャル・ビジネス

アジア・オセアニア編
ニュージーランドQR付きTシャツで
難民の体験を共有

ニュージーランドは2017年、1017人の難民を迎え、今後も受け入れ数を増やす方針だ。そんな中、元難民の若者がTシャツを製作・販売するユース・バタフライズ社を設立。テクノロジーを活用したTシャツで難民への理解を促そうとしている。

(ニュージーランド・オークランド・ディアール・真理)



ユース・バタフライズの創設者、ヨビサンさん(左)とミラードさん。着ているのは「ペーパー・ボート」のTシャツだ④ 「ムーン・アンド・スターズ」のTシャツを着るイザデザインさん



ユース・バタフライズは15人以上の元難民の若者から成る。手がけるシャツの第一弾は、ボートピープルとしてスリランカから脱出した、ヨビサン・ラジャラトナムさんによる「ペーパー・ボート」と、内戦を逃れ、夜に逃避行を繰り返したスーダン人、イザデザインさんによる「ムーン・アンド・スターズ」だ。

命からがらたどり着いた再定住先でも、難民の苦労は尽きない。受け入れる側が難民に偏見を持っていたり、理解不足で満足のいく支援ができなかったり、というのが理由の一端だ。

これらの解決には理解を深めてもらうのが一番と、ヨビサンさんと、同じく元難民の

ミラード・アーシディさんは、難民の経験を伝えるTシャツを作るユース・バタフライズを立ち上げた。

同社のTシャツは、難民理解のためのパワフルなツールだ。あしらったデザインのみならず、そこに付けられたQRコードが物を言う。コードをスマートフォンでスキャンすると、デザインのもとになった、難民本人がつづる経験談を読むことができるのだ。

加えて、現在開発中のTシャツ用のAR(拡張現実)アプリが完成すれば、Tシャツの絵柄は動くようになり、ナレーション付きのビデオも見られるようになる。元難民がいろいろぐって来た苦難をシェアできれば、社会は難民にもっと寄り添うことができるようになるに違いない。

トラウマ乗り越える力に

ユース・バタフライズの目的は、社会の理解を得ることだけでなく、Tシャツ製作を

通じ、元難民の若者を力づけることにもある。若者たちは幼少時から、紛争や内乱などで生まれ育った国が荒廃するのを目の当たりにしてきた。

祖国を愛しながらも、後にせざるを得ず、逃避行中は常に生きるか死ぬかの瀬戸際に立たされてきた。ヨビサンさんとミラードさんは、「製作活動を通して、トラウマを乗り越え、『難民』としてのステイグマを克服・解消してほしい」と考える。

同社は、「ピッチ・フォーム」と名付けたプラットフォームを土台にビジネスアイデアを練り、人材育成を行う。メンター役はエシカルな衣類のブランド「コットンシード」。コットンシードは、難民を含む移民女性を支援する慈善団体が創設・運営している。

自分たちの力で未来を切り開こうとする元難民たち——。あと必要なのは、受け入れる私たちの理解と支援以外、何があるだろう。